

聖霊降臨第 14 主日礼拝説教要旨(9月7日)

『金や銀にまさるもの』 使徒言行録 3:1-10 早川 真牧師

ペトロとヨハネが持っていたもの、それは金や銀ではなく、イエス・キリストの名でした。このイエス・キリストの名によって、男性の生まれながらに不自由であった足やくるぶしはしっかりして、立ち上がるだけでなく、歩き、踊り、神を賛美したのです。

名は権威を表しています。イエス・キリストの名にある権威によって、弟子たちは足の不自由な男性を癒しました。それは、イエス・キリストという方が、全てのものの上に立つ、権威あるお方であるゆえに起こることです。イエス・キリストは神であるので、地上で最も権威あるお方です。そのイエス・キリストの名によって命じるならば病でさえも従わなければならないということがここに示されています。

イエス・キリストが地上に来られて以来、荒野の苦しみの時は終わり、約束されていた恵みと救いの時に入っています。イエス・キリストの名を信じることによって、この男性に起こったようなことが私たちにも起こるのだと聖書は告げています。

この世に生きる上で、金や銀はもちろん大切なものです。しかしそれにまさるものがあると今朝の聖書の箇所は告げています。それは、地上にある全てのものを治めておられるイエス・キリストの名です。使徒の時代だけでなく、今も、このイエス・キリストの名による癒しは行われています。人生の荒れ野の中で立ち上がることのできなかった者が、自分の足で立ち上がり、歩き回り踊り上がって神を賛美する者となっています。私たちは地上のあらゆるものにまさるこのイエス・キリスト名を語り伝え、天地を創り支配しておられる神の救いの御業のために共に用いられていきたいと思えます。